



岡田 勇策さん
(土山町野上野)

28

発泡スチロールを使った山野草を考案

自然の中で自生する草花を栽培する山野草づくり。可憐で素朴な姿は、器とのとり合わせ、素材の組み合わせでいろんな表現ができ、全国に多くの愛好家がいる。

「野の草には独特のわびさびがあります。雑草には雑草の良さがあります。それを自分の手で表現することがとにかくおもしろいです。」と話す岡田さん。

山野草はいろんな形の鉢や岩などに植えて楽しめますが、大きなものになると重くて持ち運びに苦労します。そこで岡田さんは、何か他の物で代用できないか考え、発泡スチロールを使って栽培することを考案されました。電気ゴテやカッター、接着剤を使いながら成型する作業は、非常に細かいものですが出来上がったものは本物とまったく見分けがつかず、持ち上げてその軽さにびっくり。また、発泡スチロールは通気性がよく断熱性もあり、草の生育に適していてよく育つそうです。

今では、鉢や岩だけでなく、観賞用の器や小さな箱庭なども制作され、その作品は100点を超えます。



▲作品を前にする岡田さん

6月には東海伝馬館で初めて作品展を開催、発泡スチロール製の岩に咲く山野草や色とりどりの器の数々に訪れた人からは驚きの声が上がっていました。

9月には全国山野草会で、この栽培方法を発表する予定だそうです。「自分のやり方が多くの人に伝わり続けてくれればと思います。そして一人でも多くの人に山野草の魅力を知ってほしいです。」と岡田さん。

この先、発泡スチロール製の岩を使った山野草がいろんなところで見られるかもしれません。岡田さんのますますの活躍に期待です。

JR草津線の複線化をまちづくりとともに

～JR草津線複線化促進とまちづくり推進協議会～

JR草津線は、明治23年2月に草津・柘植間の全線が開通し、本年度、全線開通120周年を、また昭和55年3月の全線電化からも30周年を迎えます。開通以降、沿線からは、同線の複線化を求める声が高まり、これまでに複線化に向けた期成同盟会が設立されるなど、沿線住民が地域一丸となった取り組みが進められています。平成16年には、近畿地方交通審議会で、草津線の全線複線化を位置づけるなどの進展もありましたが、社会環境の変化等から、その実現は相当厳しい状況となっています。

こうした中、市民による「JR草津線複線化促進とまちづくり推進協議会」が設立され、さらなる取り組みを進め、複線化の早期実現をめざすための活動がスタートしました。滋賀県南部の中核都市として飛躍が期待される当市にとって、JR草津線は公共交通機関の中枢として重要な施設となります。市でも設立された協議会の活動に大きな期待を寄せており、同会と市、さらには関係機関が連携しながら、複線化の早期実現をとにもめざします。



▲多くの人が集まった設立総会

設立総会には、中嶋市長も嘉田知事とともに来賓として出席、あいさつでは、設立のお祝いと今後の活躍への期待を話させていただきました。

みんなで菜種を収穫

～NPO法人「鹿深の杜」～

今年の春、鮮やかな黄色の花が一面に広がった水口町山にある菜の花畑。6月に入るとたくさんさんの菜種ができ、同月13日に伴谷スポーツ少年団、保護者、会員の約100人が菜種採取を行いました。この畑は、NPO法人「鹿深の杜」の農場で耕作放棄田を復旧させたもの。ここでは環境保護や地産・地消の普及を目的に、毎年作物を栽培されています。児童らは、協力し刈り取られた菜の花を集め、約40アールの菜の花畑から500キロの菜種が収穫できました。収穫された菜種は、搾って油を採り、学校給食に提供される予定です。児童にとつて地元の食と環境を知る貴重な体験となりました。



▲刈り取られた菜の花を集める児童

スペイン文化を楽しく学習

～世界まなびじゅく～

甲賀市国際交流協会では年間5回、小学生のための国際理解講座「世界まなびじゅく」を開催しています。5月31日、忍の里プララで今年度の第1回目が行われました。この日学んだ国はスペイン。スペイン人のゲストが、日本人の奥さんと2人の子どもさんを連れて会場を訪れました。スペイン語のあいさつを習い参加者がそれぞれ行いましたが、スペインではあいさつの時に頬を合わせてキスの音をさせることを知りました。また食事は「1日5食」という話にみんなびっくり。後半はスペイン料理のトルティージャ(オムレツ)とガスパッチョ(野菜スープ)を作って試食しました。特にトルティージャは簡単で大好評、楽しくスペイン文化を学ぶことができました。



▲スペイン料理を調理する参加者の皆さん

体験を通して人権学習

人権教育連続セミナー
フィールドワーク

障がいのある人に対する理解を深めるとともに、障がいのある人たちが支援する人たちとの交流や就労支援について学ぶフィールドワークが、6月6日に行われました。

このフィールドワークは、人権教育連続セミナーの一つとして行われたもので、約40人が参加、ワークセンター紫香楽と信楽学園を訪ねました。ワークセンター紫香楽は、障がいのある人の授産施設として、和紙の製造販売活動をされています。ここでは原料の楮の皮をたたいてつぶす作業や流し込みというすき方で、ハガキづくりを体験しました。

信楽学園は、社会的自立を図るための職業・生活支援をされている児童福祉施設です。学園長の講話や、生産工場方式で、復刻版自動車などの製造作業をされているところを見学しました。参加者の皆さんは、体験を通して交流、理解を深めることができました。



▲紙すき体験をする参加者の皆さん